



タテナソン説明会 ～真の地域課題解決プログラム、今年も発進！～

5月10日(月)、「タテナソン」の本校生向け説明会が、小会議室で開かれました。「タテナソン」とは、地元立科町で経営をしている企業や商店がもっている課題に対し、高校生から大学院生までの学生たちが限られた時間の中で町なかを駆け巡り、徹底艇的に議論しブラッシュアップされたアイデアで解決策を提案するイベントです。過去3年間実施されたこのプログラムで提案されたものは実行に移され、実際の経営の改善につながっています。「リアル



町企画課、上前さんのお話に引き込まれる

ガチ」なこの取り組みは地域創生の好例であり、本校生が積極参加できれば、これ以上の地域貢献と地域学習はありません。

町役場よりお見えになったのは、このイベントを実行する担当者である、上前知洋さんでした。本校の生徒は9人集まり、熱心に耳を傾けていました。ぜひ多くの本校生が挑戦してみることを期待しています。

立科町をヤバくする学生アイデアソン
リアルガチの28時間

タテナソンの特徴

- 1 「リアルガチ」である
【課題がガチ】地域の事業者が抱える経営課題に挑戦できる
【参加者がガチ】全国から熱い学生(高校生～)が多く集まる
【事務局がガチ】関わるスタッフ(学生含む)が楽しそう
- 2 アイデアは「実行」される
出たアイデアは、事業者の責任で実行に移される

参加した3年生の感想

『お話を聞いて、お～すげーと思いました。自分は口下手なのですが参加して、販売等で(アイデアを出して)頑張ってみたいと思います。』



中高連携授業 始まる～グータッチは連携の証！～

5月11日(火)より、本校と立科中学校との授業連携が始まります。けさ校長室に新任の数学講師である菅徹平先生がご挨拶にお見えになりました。小中からの積み上げが大切な数学。指導力の向上が楽しみです。



固いグータッチを交わす二人

困ったお話(その35) (鳥の耳に念仏?)

良いゴールデンウィークだった。仕事以外はほとんど村から出ず、単身生活で遅れた雑用、木を伐ったり、草を刈ったり、畑づくりをしていた。さて、この時期の畑は、私はあるライバルとのバトルで気が重い。

奴は畑の土手下にあるやぶの中に巣をつくっている。私が豆をまいて油断していると、奴はぬき足さし足土手をのぼってくる。そして畑につくや否や、狂ったように畑を引っ掻き回しはじめるのだ。これだけでも充分犯罪的なのだが、憎たらしいのは私に見つかった後だ。私の姿を見つけると、奴は『ギョッ! ギョボボ』とわざとらしい声を上げ始める。まるで『あつ! のろまなタコが現れた』と言っているようだ。そしてこちらを見ながら体をゆすり、なんと、歩いて畑を去っていくのだ。『おまえごときに飛ぶ労力が惜しいもんね』と言わんばかりのなめきった態度に、私は強い怒りを覚えた。しかし相手は鳥だ。こらえて上品に説諭した。『これ、煩惱多き鳥よ。私はいつも人から見下され軽んじられているが、まさかキジのお前からも同じ仕打ちを受けるとは思わなかったぞ。鳴き声はケンケンのはずだし、その派手な羽根は、飛ぶためにあるのではないのか? それとも雌をたぶらかすためだけか? 恥を知りなさい!』

我に返ると奴はやぶの中に消えていた。次回は飛び去るだろう。

って解決にならん!

